

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念の中に、「地域との触れ合いを大切にし、心安らく、GHを目差す」という文言を入れている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームにおいて、理念を掲示して共有・実践に取り組んでいる。また、採用時の新人研修のマニュアルに掲載して意識の徹底を図っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所に理念を掲示したり、毎月の「のんきさん通信」にて理念の啓発活動に努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地区の行事に積極的に参加したり、散歩やゴミ出し等で隣近所の方々と会ったら挨拶を交わしたり、町内会に入会し利用者や回覧板や市報の配布をしたりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の老人会に現在6名参加している。また町内会にも入会し、掃除なども手伝っている。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者へ老人会の役員の方と協力し、事業所主催のバスハイクなどへの参加を募っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を職員一人ひとりに配布し、個人で自己評価し、GHに求められているものを理解するように努めている。また、評価後は指摘事項に対して改善するように話し合いを持っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日頃の活動報告や家族会からの要望、職員間での検討事項を報告し、意見を求めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	小倉南区の社会福祉協議会主催の「ほっとスクラム」に定期的に参加したり、GH協議会のブロック長として北九州市の介護保険課の担当者と会合を持ったりしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の研修に参加したり、入居者のご家族への成年後見制度の利用を促したりしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修に参加したり、ミーティングなどにおいて職員間でも勉強会などを開き、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の書類は、製本して取扱いやすくし、また十分な時間を取って説明をしている。退去の際も不安がないようにアフターケアに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員一人ひとりが利用者とのコミュニケーションを親密にとることを心がけ、会話や態度で不満や意見があるのではないかと受け止める姿勢を持っている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	介護計画を毎月見直し、作成したものを家族に説明し、署名を頂いている。また、健康状態など特変があった場合には速やかに家族に連絡をしている。毎月1回は全てのご家族と話すことにしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族主体の家族会を運営して頂き、直接園に対して言えない苦情や要望を揚げてもらっている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1日2回の申し送りや、月1回のミーティングなどで、職員の意見や提案を出し合って検討している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	イベントや外出、また家族の面会など、必要な時間帯に適切な職員配置を行っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	休日の確保や勤務に無理がないように調整し、退職する職員が出ないような努力をしている。また、退職者がある場合にはスムーズに引き継ぎができるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている	職員採用の際には、認知症高齢者に対する気持ちを重視し性別・年齢を基準にすることはない。また、認知症介護未経験者でも、認知症介護を通じて働き甲斐を感じられるように指導している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングなどの機会に、権利擁護や人権尊重などの話をしている。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には事業所独自のマニュアルを配布している。また、認知症実践者研修やGH協議会の研修などに参加するように促している。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県認知症高齢者GH協議会や老いをささえる家族の会、門司区介護事業者連絡会などに入会して、情報の入手やサービスの向上への取り組みに生かしている。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフルームを設け、休憩時間はゆっくりできる様配慮している。また、週休2日を堅持している。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	折りに触れて、一人ひとりと話をする機会を設け職員個々の現状把握に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族からの相談が多いが、ご本人と面会した際、その方の気持ちに寄り添い、本人の気持ちを理解するように心がけている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族からの相談では、入居や予約に至らない場合にも、認知症のご家族をかかえる悩みやストレスの軽減になるよう、よく話を聴くように努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族にとってより良い支援ができる様相談にのっている。また、横のつながりなどを駆使して他のサービス利用が必要な場合には紹介している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居制度を設けて、園の雰囲気に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その方らしく生き生きと生活できるよう、ご自分でできることは見守りながらやって頂く。また、裁縫など職員が教えて頂きながら取り組んでいる。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の会を作り、職員と協力して一緒に支援するような関係を構築している。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居の際、センター方式のシートを利用し、本人とご家族の関係の理解に努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のご近所の方々の面会や、ご自分の馴染みの場所へ行きたいとの希望があればお連れしたりしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	1人ひとりの性格を把握し、孤立しないように声かけや見守りなどを行っている。また、利用者だけで話をしている時などは見守りながら様子をみている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	定期的に様子を伺ったり、連絡をとったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	センター方式のシートを利用し、ご本人の希望や意向を把握するように努めている。また表出困難な利用者には、皆で思いをくみ取るよう話し合いを持っている。	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	センター方式のシートを利用し、本人の生活歴の把握に努めている。また、ご家族からの情報を多く頂くため時間を十分にとって情報収集に努めている。	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	センター方式のできるシートやアセスメントを利用し、利用者の現状把握に努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護計画は計画作成担当者が本人やご家族と面談して作成している。また、ミーティングにおいて課題があれば、全員で話し合い介護計画を立てている。	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	毎月介護計画の見直しを行い、ミーティングにおいて課題がないか皆で検討している。また、家族にも説明し、見直しが必要な時は家族にも希望などを伺っている。	
40	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	毎日処遇記録をつけ、職員が気づいたことなども記入するようにしている。また、1日2回の申し送りをして、情報の共有を図っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊や外出などは、要望があれば自由にできる。また、その際の薬や着替えなどの支援もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区の祭りや文化祭など地域資源は、フル活用している。また、地域の皆さんも協力してくれている。家族会などのイベントにも地域の方々がダンスや歌などを披露してくださっている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問マッサージなどのサービスを利用者の意向に沿って提供する支援をしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の構成員として、地域包括支援センターの職員の方に協力頂き、地域の認知症高齢者の現状や権利擁護などの話をしている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	馴染みのかかりつけ医がいる場合には、本人やご家族の意向を重視して、受診などにお連れし、適切な医療を受けられるよう支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門の提携協力医院の医師に定期的に往診して頂いている。また、CTやMRなど必要な場合には職員がお連れして受診している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携協力医院の看護師と連携し、日常の健康管理の支援や相談をしている。また、隣接するディの看護職員にも協力をお願いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合には、職員が定期的に訪問したり、家族に連絡して、様子を把握し、本人が混乱することのないよう早期退院に向けて、病院関係者とも連携している。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化し、GHでの対応が困難であると医師などと相談の上、決定した場合ご家族や関係者によく話し合い意向を踏まえた上で今後の方針を決めている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合には、残存機能の維持に努め、少しでも自力でできることを見つけて尊厳を大切にするように職員全員で支援している。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	馴染みの環境をなるべく変えないように、関係者と協議している。また、GHから別の場所へ住み替える場合には、たくさんの情報提供するように心がけている。		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約時に個人情報の取扱いについて説明し、家族に同意を得ている。また、記録や申し送りにはイニシャルで呼び、配慮している。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定の機会を増やし、思いや希望が表せるようなケアを心がけている。また、認知症状が進んだ方には二者択一の形式で自分で決めることの支援をしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩など、一人ひとりのペースに合わせたケアを心がけている。職員間で協力して利用者本位の支援をしている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望があれば、認知症に理解のある近隣の美容室にお連れしておしゃれができるように支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものや嫌いなものを把握し、また季節感のある献立作りを心がけている。また、配膳や片付けなどの手伝いもして頂くようにして、本人の存在意義が感じられるように支援している。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒や喫煙の常習者はいないが、老人会などでは、飲酒する利用者には、支援している。また、本人の好きなおやつなどは買い物の際一緒に行って購入している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録をつけ、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。また、必要な場合には医療的な支援も行い気持ちよく排泄できるように考えている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜以外は毎日午後より入浴準備をして、希望があれば毎日入浴できるようにしている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりのペースを大切に、安心して眠れるような環境作りをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	好きな事・得意な事を把握し、その事をやって頂きながら生きがいや張り合いになるように支援したり、GHで楽しみを見つけられるように努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理ができる方には所持して頂いている。希望に応じて買い物などでそれを使ってもらったりしている。ご家族にはその都度報告している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に留意しながら、基本的には毎日散歩をすることを日課にしている。また買い物などにも一緒に行き気分転換を図っている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	市報や老人会の案内などをチェックし、出かけられる所には積極的に出かけている。また、年に1～2回家族を交え、ぶどう狩りや日帰り温泉旅行などを企画している。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をする支援をしている。手紙も本人にお見せし、返信などの手助けをしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制約をしておらず、夜間以外には施錠もしないで、気軽に訪問できる環境を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事例はないが、ミーティングなどでも身体拘束について勉強会を行っている。また研修にも積極的に参加し、研鑽を積んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠しないどころか、天気の良い日はドアを開けっ放しにして、開放的な雰囲気を作っている。居室にもカギをつけておらず、個人的に必要な場合にのみカギを居室につけている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員で声かけをし合い、一人ひとりの所在確認をしている。自由に1人で出てもすぐに声かけせずにはばらく見守りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみやツメきりなど、必要な場合にご自分でできる方であれば、見守りながら使用していただいている。しかし、保管は危険のないように注意している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを作成している。またひやり・ハット報告書を検討し、深刻な事故に至らないように配慮している。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防訓練において、心臓マッサージなどの講習を受けたり、緊急時の連絡対応などもマニュアル化して備えている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練時に消火器の取扱いの訓練をしたり、各居室には火災報知機を設置している。また近隣住民の方々にも協力を得るようお願いしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの心身の状態に応じたリスクを考え、介助や見守りなどで対応している。		
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルや検温などは欠かさず、また気づいたことは記録に残し、申し送りや連絡帳にて情報の共有に努めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し、管理している。また薬の効用や副作用についての情報も一人ひとりまとめて職員が全員把握できるようにしている。また、医療機関と連携し、症状の変化に応じた投薬に努めている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の食事は野菜中心の献立にして、食物繊維の摂取に努めている。また便秘にならないように薬で調節する必要がある場合には対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアは実施している。自分では困難な利用者には、職員が介助して実施している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は必ず記録して、一人ひとりの健康管理に努めている。また、おいしい水を提供し、水分摂取を促している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	玄関には、来訪者やスタッフ・利用者がいつでも使えるように消毒液を常設し、特に最近注意喚起を促すようにしている。また厚労省や介護保険課からの伝達文書は皆で目を通すようにしている。防止マニュアルも作成している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理のため、チェック表を作成し、除菌や消毒を徹底している。また、生ものは季節を考慮しながら提供している。		
82 (1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉などを取り払い、また施錠せず、天候のよい日は玄関ドアも開放して、親しみやすい雰囲気をつくるようにしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は、動きやすく見晴らしが良いように工夫して利用者が快適に生活できるように配慮している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外に玄関先にイスを設置しており、小グループで思い思いに過ごせるように配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気以外は、本人の馴染みのものを持ってきて頂き自由に設置してもらっている。危険であると懸念されるものは家族と十分に話し合い対応している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝窓を開け、換気をしている。また空気清浄機やアロマオイルなどで、消臭するようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イスの利用者や転倒の危険性がある利用者のために、動線には障害物を置かない工夫をしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの気持ちに寄り添い、相手の心を理解するような姿勢でコミュニケーションをとりながら、混乱しないような配慮をしている。また失敗しても次は上手くできるようにと一緒に考える態度で介護している。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花や野菜を植え、水遣りや収穫などの楽しみを共有できるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域とのつながりが緊密にできており、入居者の6名が地区の老人会に入会しており、年に1回の誕生会や敬老会に出席している。その際には、他の老人会の方々や役員の方々をはじめ、ボランティアの福祉協力員の方々が大変歓迎して下さり、車の乗降や席順などに配慮頂いている。また、地域のイベント(運動会・夏祭り・神社の大祭・文化祭など)にもほぼ全員で出かけ、地域の方々との交流を深めている。さらに今年は恒例にしている9月のぶどう狩りにご家族以外に地域の老人会の方々を招待し、10名ほど参加して頂き、入居者とそのご家族とのよい交流の場となり、今後は毎年このような形でのぶどう狩りにする予定である。11月の文化祭でも、作品を出品するため、皆さん頑張っておられている。運営推進会議の場でも、地域包括支援センターの方や地域の自治会の方などが、地域の認知症高齢者の現状などの意見交換をしており、園としても認知症理解への啓発活動として講演なども行っている。また、職員のスキルアップや認知症の勉強のために、「認知症高齢者実践者研修」を受講させるよう人材派遣の利用などで、受講しやすい環境づくりをしている。また、施設長がGH協議会のブロック長に就任したことから、以前にも増して、他の事業所との情報交換や研修など、活発に活動している。